

講義型授業における課題遂行先延ばし行動と自己調整学習の関係性について

The relationship between procrastination and self-regulated learning in lecture style class

山田政寛¹ 合田美子² 松田岳士³ 齋藤裕⁴ 加藤浩⁵ 宮川裕之⁶

Masanori YAMADA¹ Yoshiko GODA² Takeshi MATSUDA Yutaka SAITO Hiroshi KATO
Hiroyuki MIYAGAWA

九州大学¹ 熊本大学² 島根大学³ 元筑波大学⁴ 放送大学⁵ 青山学院大学⁶

Kyushu University¹

Kumamoto University²

Shimane University³

Former researcher at Tsukuma University⁴

The Open University of Japan⁵

Aoyama Gakuin University⁶

〈あらまし〉本研究では講義型授業において、課される期限付き課題に対する先延ばし行動と自己調整学習の関係について検討を行った。授業は1年生向け選択必修科目(一部の学部は必修)であり、受講者数は186名であった。積極的先延ばし行動に関する尺度と自己調整学習尺度、授業の優先度と学習習慣について質問紙調査を行い、収集したデータについて相関分析を行ったところ、積極的先延ばし行動と全ての項目に有意な相関は見られなかったが、消極的先延ばし行動や計画行動と自己調整学習の間に有意な相関が見つかるなど、自己調整学習との強い関係性が示された。

〈キーワード〉 積極的先延ばし行動 自己調整学習 メタ認知 学習者分析

1. はじめに

学習者の行動として、課題遂行における学業的先延ばし行動というものがある。学業的先延ばし行動とは、授業において教員から与えられた課題の遂行を何らかの要因によって先延ばしすることである。学業的先延ばし行動は学習者にとっては課題内容のクオリティに影響を与え、学業成績にも強く影響する。しかし、学業的先延ばし行動が必ずしもネガティブなものではない。学習者自身が現在の優先事項を選定し、自身の課題遂行に割くことができる時間、課題を完了させるまでの時間見積り等、メタ認知を発揮することで、積極的に課題遂行を先延ばしすることは積極的な学習計画を立てる行動であるという判断も可能である。この先延ばし行動を積極的先延ばし行動(Active Procrastination)(CHOI and MORAN, 2009)とされており、先延ばし行動でも、メタ認知が発揮されない無計画な先延ばし行動と計画的な先延ばし行動では学習の意味合いにおいて切り分けて判断すること

が望ましい。本研究では積極的先延ばし行動と自己調整学習の関係性について検討をする。

2. 調査方法

本調査は国立大学で開講された1年生向けの講義型授業を対象に行った。この授業は選択必修科目(1つの学部においては必修)であり、受講者は186名であったが、1年生183名をデータ分析対象とした。課題は毎回、授業後から授業日中に授業のサマリーと受講者自身の意見等を書いて、学習管理システムを通じて提出することが求められた。課題提出については1日遅れまで提出が許可され、得点を半減されることとされた。レポートについては小レポートが2回、最終レポートが1回課された。

使用した質問紙は、積極的先延ばし行動については2x2時間関係学業評価尺度(STRUNKら, 2013)を、自己調整学習については、Motivated Strategies for Learning Questionnaire(以下、“MSLQ”と略す)(PINTRICH and DEGROOT,

1990)を使用した。2x2 時間関係学業評価尺度は、選曲的先延ばし行動(7項目)、消極的先延ばし行動(4項目)、積極的計画行動(6項目)、消極的計画行動(5項目)の計22項目を使用した。MSLQは自己効力感、内的価値、テスト不安、認知的学習方略の使用、自己調整の5因子44項目から構成されるが、本授業ではテストを行わないため、テスト不安(4項目)について削除した40項目を使用した。また独自項目として「この授業よりも優先すべき授業がある」「この授業よりも優先すべき活動(部活・サークル・アルバイトなど)がある」「昔から、学習の計画を立てて学習する習慣がついている」の3つを質問項目として収集した。

3. 結果

3.1. 2x2 時間関係学業評価尺度と MSLQ の相関について

2x2 時間関係学業評価尺度と MSLQ についてピアソンの相関分析を行った結果を表1で示す。相関分析の結果、積極的先延ばし行動以外の項目と MSLQ の間に正負の有意な相関が見られた。消極的先延ばし行動と MSLQ は負の有意な相関が、両方の計画行動と MSLQ については正の有意な相関が確認された。

表1 2x2 時間関係学業評価尺度と MSLQ の相関分析の結果 (**: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$)

	積極的先延ばし行動	消極的先延ばし行動	積極的計画行動	消極的計画行動
自己効力感	0.049	-0.261 ***	0.430 ***	0.315 ***
内的価値	-0.047	-0.190 **	0.417 ***	0.417 ***
認知的学習方略	0.007	-0.181 *	0.478 ***	0.459 ***
自己調整	0.055	0.050	0.391 ***	0.376 ***

3.2. 授業の優先度、学習習慣と 2x2 時間関係学業評価尺度、MSLQ の相関について

先延ばし行動には学習者の日常生活や専門、これまでの学習習慣が影響することが考えられるため、学習者の優先意識、学習習慣に関する3つの独自項目と2つの尺度の関係性について分析を行った。その結果を表2に示す。その結果、積極的先延ばし行動以外の項目と独自項目の間に有意な相関関係が見られた。特に学習習慣につ

いては7項目との間に有意な相関が見られ、消極的先延ばし行動以外とは正の相関が見られた。また MSLQ の内的価値についても、「優先する授業」、「優先する活動」との負の有意な相関が見られた。

表2 授業の優先度、学習習慣と 2x2 時間関係学業評価尺度、MSLQ の相関 (*: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$)

	優先する授業	優先する活動	学習習慣
積極的先延ばし行動	-0.048	-0.083	-0.071
消極的先延ばし行動	-0.070	-0.020	-0.242 ***
積極的計画行動	-0.044	-0.023	0.363 ***
消極的計画行動	-0.008	-0.031	0.323 ***
自己効力感	-0.094	-0.095	0.214 **
内的価値	-0.174 *	-0.176 *	0.287 ***
認知的学習方略	0.004	-0.037	0.348 ***
自己調整	0.107	0.037	0.185 *

4. 考察と今後の展望

本研究では積極的先延ばし行動と自己調整学習、授業の優先度、活動の優先度、学習習慣との関係性の検討を行った。積極的先延ばし行動との関係は見られなかったものの、計画行動と消極的先延ばし行動と関係のある項目について確認された。先延ばし行動でも消極的先延ばし行動を行う学習者への支援を検討するためにも、積極的・消極的先延ばし行動を行う学習者を特定する項目抽出を続けていく予定である。

参考文献

- CHOI, J.N. & MORAN, S.V. (2009). Why not Procrastinate? Development and Validation of a New Active Procrastination Scale. The Journal of Social Psychology, 149(2):195-211.
- PINTRICH, P.R. & DEGROOT, E.V. (1990). Motivational and Self-Regulated Learning Components of Classroom Academic Performance, Journal of Educational Psychology, 82(1): 33-40
- STRUNK, K.K., CHO, Y., STEELE, M. R. & BRIDGES, S. L. (2013). Development and Validation of a 2 x 2 Model of Time-Related Academic Behavior: Procrastination and Timely Engagement, Learning and Individual Differences, 25: 35-44